

田富小だより

2021年を振り返って

令和3年度
第9号
12月23日
田富小学校



早いもので、2021年も残すところあと8日となりました。コロナ禍2年目の学校教育活動は、昨年に比べ、授業日数も、学習内容も充実したものになりました。これも、新型コロナウイルスに対する人類の対応力が増してきたからでしょう。具体的に振り返ってみると、・感染症のための臨時休業がなかったこと・修学旅行をはじめとするほとんどの校外行事が計画通り実施できたこと（5年生の県外の自動車工場見学については、受け入れをしておらず、実施できませんでした）・歌唱や器楽演奏、調理実習、理科などのグループ別の実験等の感染リスクを伴う教育活動が、感染症対策を施しながら実施できたこと などです。少しずつではありますが、以前と同じような学校教育を実施することができてきたことを喜ばしく思います。ただ、最近になって、また、新種の変異株の報道があり、予断を許さない状況には変わりありません。これからも以前と同じような学校教育活動を展開できるよう、変わらぬ感染対策へのご協力をお願い致します。

さて、左の写真をご覧ください。

私が子どもの頃は、“集会といえば校庭”が常識でした。今ではどの学校でも体育館に集合して行うのが普通です。しかしながら、ここ2年、感染症の影響で、人が密になる状況避けなければならなくなった結果、このような青空集会が実現しました。この日は、児童会役員選挙の当選証書授与や自由研究、読書感想文などの表彰状伝達が行われました。日本晴れの空のもと、実に清々しい気持ちで参加することができました。気象条件が許す状況下では、空や雲や山や、時に、高く舞い飛ぶトンビを見たりしながら、季節を満喫できるのではないかと、青空集会も捨てたもんじゃないとコロナ禍で改めて感じました。



大人になる君たちへ

6年生については、卒業まであと4か月となりました。長い長い義務教育の3分の2を小学校で学ぶわけですが、小さかった子ども達も親御さんと同じ身長くらいになった児童もいるのではないのでしょうか？思春期への第1歩を踏み始めた子ども達の心は大きく揺れ動くものです。

誰にも相談できず思い悩むことがないように…と実際に現場で活躍するスクールカウンセラーの先生の授業を受けることができました。先生は、以前、田富地区でカウンセリングをされていた遠藤由紀子先生です。先生のお話の核になる部分は、「一人で悩まず、誰かに相談すること」それは、「スクールカウンセラーでもよい」と。しかし、スクールカウンセラーと話すことにはちょっと抵抗があるという子も多いはず。そんな不安を取り



除くべく遠藤先生が直々にカウンセリングデモンストレーションを行ってくれました。代表で話をした子ども達も気兼ねなく話せたと言っていました。進学しても新しい先生や新しい友達、一番気がしがれた家族、だれにでも話せることが大切です。中学校にもスクールカウンセラーの先生はいます。一人で思い悩まず、どんどん相談してほしいと思います。一人一人の思い、一人一人の命を大切にしていきたいと再確認できた授業でした。

みんな同じように生きる



左の写真は、4年生の総合的な学習の一環として企画した授業のひとコマです。前号でもお伝えしましたが、4年生は今年度、福祉について学んでいます。11月25日、視覚に障害を持つ白濱さんと盲導犬(クラリー号)をお招きして、講演会を開きました。目が不自由ということがどういうことなのか、盲導犬と人との繋がりなど、クイズを交えながら分かりやすく教えていただきました。「不便ではあるけれど不幸ではない」今置かれている状況で有意義な人生を過ごしていることを教えてくださいました。これに先んじて別の日に、聴覚障害の方や手話通訳の方にも講演していただ

きました。みんな同じように「生きていることを楽しんでいる」ことを学びました。聴覚障害の方は子どもの頃、ハンディを背負っていることでお悩みになっていたこともあったそうですが、スポーツを通じて頑張ってみようとして奮起して、素晴らしい成績をとったということです。子ども達は、障害がある方もそうでない方も同じように生きていけるよう互いに助け合うべきだと考えてくれたと思います。これから社会にでていく子ども達にとってとても貴重な授業であったと思います。

児童会活動2つの紹介

児童会の活動も活発に行われています。今回は2つの活動を紹介します。まず、右の写真ですが、「縦割りの清掃」の様子です。縦割り班で清掃箇所を分担し、高学年が低学年をリードしながら、自分たちの学び舎をきれいにしようという取り組みです。今、学校ではSTSZ運動が展開されています。S=静かに T=丁寧に S=すみずみまで Z=時間を守って の頭文字をとった清掃活動をしっかりするための取組です。この児童会の取組成果もあって、清掃時間はどの学年もほとんどSTSZが守られている状況です。では、なぜ縦割りの清掃なの？ということになりますが、異学年がともに活動する機会を持つことの意義は、①低学年が高学年のいいところを見習うことができる ②高学年が小さい子を指導する中で学びがある の2つが大きいかと思います。実際に、6年生を中心に準備活動もあり、その甲斐あって小さい子達がお兄さん、お姉さんの一生懸命掃除する姿を見ながら、より確実なSTSZ清掃ができたと思います。もう一つは、「おはタッチ」運動です。感染症がなければ、「おはよう」と言いながらハイタッチする活動は多くの学校で見られます。しかしながら、こんな状況下ですから、大きな手の形をした平面模型を担当学級の子たちが持ち、登校する児童が「おはよう」と挨拶しながら、その模型にタッチしていくのです。効果は抜群です。担当学年になった子ども達がこれまでより一生懸命挨拶を呼び掛けるようになり、それに呼応するように子ども達も笑顔で挨拶をする様子が多くみられるようになりました。とても素敵な取り組みだったと思います。



新しい年明けまであと少しです。本年も田富小教育にご理解・ご協力をいただきありがとうございました。児童の皆さん、保護者の皆さん、地域の皆さん よい年をお迎えください。